

平成21年12月2日

内灘町生涯学習推進本部
本部長 八十出 泰成 様

学びの風推進協議会
会長 夷 藤 保



「内灘の豊かな自然を中心とした郷土の歴史の学び」への提言について

貴台におかれましては、日頃から、町民の生涯学習活動の支援にご尽力を賜り、誠にありがとうございます。町行政の理解と協力のおかげによって、生涯学習の「学びの風」が、町中にさわやかに吹きわたっていることを、大変喜ばしく心強く感じております。

つきましては、学びの風推進協議会では、「町づくり」は「人づくり」であるとの基本的な考えをもとに協議を重ねてまいりました。そして、郷土（ふるさと）の歴史を知ることが、自分と郷土に対する愛情と誇りをもつことにつながると考え、「内灘の豊かな自然を中心とした郷土の歴史の学び」への提言をまとめました。町民の方々に、内灘の誇るべき自然財産である、日本海・内灘砂丘・河北潟を中心とした歴史に学ぶ機会を多く持っていただきたいと思います。

提言の内容についてよろしくご検討くださり、是非とも、今後の施策に反映させていただきますよう、お願い申し上げます。

また、学びの風推進協議会がこれまでに行ってきました「五つの提言」、

「子どもが本に親しむ環境作り」への提言（その1）	（平成12年11月）
「子どもが本に親しむ環境作り」への提言（その2）	（平成13年12月）
「子どもたちの心と体を豊かに育むための生活習慣（食生活）」への提言	（平成15年9月）
「ふるさと内灘の環境を活かした学び」への提言	（平成18年3月）
「自分と郷土に誇りをもった人を育むまちづくり」への提言	（平成19年12月）

の継続的な推進をも、重ねてお願い申し上げます。

そして、内灘町民の一人一人が、生涯学習の基本理念である「豊かで充実した人生」を送ることができまよう、より一層のご支援をお願い申し上げる次第です。

「内灘の豊かな自然を中心とした郷土の歴史の学び」への提言について

1、はじめに

内灘町では、平成18年度（2006年度）に発表された「第四次 内灘町総合計画」の中で、
「自分らしく…」 「自分と郷土に誇りをもった人を育むまちづくり」の推進を表明しています。

学びの風推進協議会は、前回の提言「自分と郷土に誇りをもった人を育むまちづくり」において、「町づくりは、人づくり」であるとの基本的な考えのもとに提言を行ってきました。今回の協議会では、「人づくり」ということに焦点を絞って、さらに協議を重ねてきました。

郷土を誇ることは、そこに住んでいる自分自身の誇りでもあります。「郷土（ふるさと）を誇る心」は「郷土（ふるさと）を愛する心」でもあります。そして、郷土愛は「郷土の歴史」を知ることによって育まれるものであると考えます。「学びは歴史に極まる」という古人の言葉もあります。

学びの風推進協議会では、このような基本的な考えをもとに、「うちなだの歴史」を学ぶための具体的な実践について協議を進めてきました。

2、内灘で「誇ること」のできるもの

内灘の町民である私たちが、他の市町村や他県あるいは外国の人々に、自分たちの町を紹介しようとする場合に、まず脳裏に思い浮かべる事物には、どのようなものがあるでしょうか。

おそらく、町民のほとんどの人が、「日本海」や「河北潟」の美しく豊かな自然に恵まれた内灘町の景観を思い起こすのではないかと考えます。「日本海」や「河北潟」、そして、「内灘砂丘」の自然は、その景観の美しさのみならず、私たちのくらし（生活）にも豊かな恵みをもたらしてくれています。

「日本海美し 内灘の砂丘美し 波の音聞きて 生きる人の心美し」（井上 靖）と詠（うた）われているように、私たちの先人たちは、大きくて青い日本海の波の音を聞きながら、日本海と河北潟の豊かな自然に抱かれた内灘砂丘でのくらし（生活）を営んできました。私たちの祖先の、そして、現代に生きる私たちのくらし（生活）を支えてきた日本海・河北潟・内灘砂丘の美しく豊かな自然こそ、私たち町民の自慢であり「誇り」であると考えます。

3、郷土（ふるさと）の歴史に学ぶ

郷土（ふるさと）を「誇る心」は、郷土（ふるさと）を「愛する心」に外なりません。そして、「郷土の歴史に学ぶ」ことは、自分と郷土を愛する心をさらに広く深く育むものと考えます。

学びの風推進協議会では、郷土の歴史とは、郷土に生きる人々のくらし（生活）の歴史であると考え、自然を中心とした学びの実践のために、以下の内容について協議を重ねてきました。

（1）「日本海」・「内灘砂丘」の自然と人々のくらしの歴史について

ア、「日本海」の自然と人々の暮らし

昔も今も、「日本海」は青く美しい景観と豊かな漁場を合わせ持つ広大な海です。海岸での地引網や小型漁船による沿岸漁業は、長い間、内灘に住む人々の暮らしを支えてきました。イワシ・アジ・タイ・カレイ・キス・コゾクラ・イカ・ハマグリ・アサリなど、豊富な魚介類は自然の恵みであり、日本海での漁業は内灘の人々の暮らしを支える貴重な産業でした。

また、海水浴や磯釣り、マリンスポーツなど、観光や娯楽の方面でも多くの人々に楽しみ・喜び・暮らしの潤いをもたらしてきました。

イ、「内灘砂丘」の自然と人々の暮らし

「内灘砂丘」は、青森県の猿ヶ森砂丘（下北砂丘）、鳥取県の鳥取砂丘に次いで、日本で3番目に大きい砂丘と言われてきました。現在の地形は、ほぼ4000年前～1600年前頃に形成されたようです。

内灘砂丘の歴史の上での大きな変化は、大正時代の「栗崎遊園」の開園・「栗崎海水浴場」の開設・「浅野川電車」の開通。昭和時代の「内灘試射場」の接收。その後、「砂丘地開発事業」で整備された灌漑設備によって、砂丘地での畑作農業も盛んになりました。また、アカシア団地をはじめとする「団地の造成」・「内灘海水浴場」の開設・「金沢港」の開港・「能登海浜道路」の開通など、内灘砂丘の自然は幾多の変遷を経ると同時に、人々の暮らしにも大きな変化をもたらしてきました。

(2)「河北潟」の自然と人々の暮らしの歴史について

大清湖・蓮湖とも呼ばれていた「河北潟」の豊かな自然は、水生植物・水生動物・野鳥の宝庫でもありました。この豊かな自然の恵みの中で、多くの人々が漁業を営み、稲作農耕をして暮らしを立ててきました。

ア、「河北潟」の漁業と人々の暮らし

フナ・コイ・エビ・ウナギ・カワギス・アマサギ・シラウオ・ナマズ・ハネ・ボラ・シロゴリ・アメゴリ・シジミ貝など、多くの種類の魚介類は、人々の暮らしを支える大切な生活資源でした。漁師たちは投網漁やモチアミ漁などの漁法で魚を獲りました。

イ、「河北潟」の農業と人々の暮らし

約2500年前頃に農耕集落が現れるようになって、半農半漁の人々の暮らしが定着するようになってきました。江戸時代の銭屋五兵衛の河北潟埋め立て工事の夢は、昭和時代の河北潟干拓事業となって実現されたと言えるかと思います。河北潟干拓地では、酪農をはじめ、野菜・果樹・稲作など、さまざまな農業が行われています。

4、「郷土（ふるさと）の歴史に学ぶ」具体的な実践について

(1)「ひと目でわかる『うちなだ』の歴史年表づくり」について

内灘の歴史に関する書物や資料は、『内灘町史』や『内灘郷土史』をはじめとして、これまでも数多くありますが、学びの風推進協議会では、身近で手軽な“「ひと目でわかる」歴史年表づくり”の実践を提案することにしました。

“「ひと目でわかる」歴史年表づくり”の目的とねらいには、二つの考えがあります。一つには、日本海や河北潟、内灘砂丘などの美しく豊かな内灘の自然財産と人々の暮らしについて、それぞれの分野ごとに「ひと目でわかる」ようにすること。二つには、高齢者から青・壮年、小・中学生の各年代に応じて、それぞれの興味・関心の趣くところにしたがって、“「ひと目でわかる」歴史年表づくり”をすることによって、郷土の歴史と人々の暮らしについて学んでほしいとの考えです。

(2) 「町民へのアピール」について

郷土（ふるさと）の歴史に学ぶことの大切さを広く町民にアピールするために、公民館・各種公共団体や学校教育の活動を通して、「学習会」・「講演会」・「シンポジウム」・「見学会」などの実践を提案したいと考えています。

その他、「ひと目でわかる歴史年表」コンクールの実施。内灘観光ボランティアの方々の協力を得て、「うちなだ Q&A」（「うちなだ検定」）の作成など。学びの機会のいろいろな広がりや深まりを期待しています。（具体的な実践例の参考として、「学びの風推進協議会」が作成・企画した、「ひと目でわかる歴史年表」と、「うちなだの歴史に学ぶツアー」の資料を巻末に添付しました。）

郷土の豊かな自然と人々の暮らしの歴史は、さまざまな風俗・慣習・伝統文化として現代に受け継がれています。内灘町各地区の祭礼行事や盆踊りの唄・踊り・伝承芸能なども、郷土の自然と人々の暮らしが密接に結びついていると考えます。

このように、郷土（ふるさと）の歴史に学ぶ内容については、もっと幅広く・奥深いものがあると思います。

5、お わ り に

現在、私たちは内灘の美しく豊かな自然の恩恵を受けて暮らしています。長い歴史の移ろいの中で、郷土（ふるさと）の自然や人々の暮らし（生活）のようすもさまざまに変貌を遂げてきていると思われます。「ふるきをたずねて新しきを知る」という言葉もあるように、「郷土（ふるさと）の歴史に学ぶ」ことによって、郷土を愛し、自分と郷土に誇りをもって生きる内灘町民が一人でも多く育まれることを信じております。

「人生の真実、は、実践にある」と言われています。上記の提言内容を検討していただき、「学びの風推進協議会」がこれまでに行ってきた五つの提言の継続的な推進とともに、一つでも多くの具体的な実践化をお願いするものです。そして、内灘町民の一人一人が、「生涯学習の理念」でもある「豊かで充実した人生」を送ることを願っております。

以 上。

内灘町はどんな所？



－ うちなだの歴史に学ぶ －
ツアー参加者募集！！

あなたの知ってる内灘町、あなたの知らない内灘町
内灘町の魅力を新たに発見できるツアーに参加しませんか？

平成21年9月26日（土）開催

開催時間：午後2時～午後4時

対象者：一般町民

参加費：無料

募集定員：30名（定員を超えた場合は抽選となります。）

集合場所：内灘町役場正面玄関前

集合時間：午後1時30分

コース：

役場 → 小濱神社 → 高浜虚子句碑
→ 平澤嘉太郎碑 → 小濱神社社址
→ 着弾地観測所 → 井上靖文学碑
→ 役場



◎当日は、バスで町内をめぐり、その後役場にて座談会をおこないます。

参加希望の方は、9月15日（火）までに下記までご連絡ください。

連絡先 学びの風推進協議会

内灘町教育委員会 生涯学習課

Tel（直通） 076-286-6716

Fax 076-286-6714

Mail shogaigakusyu@town.uchinada.lg.jp

ひと目でわかる「内灘」の歴史

——自然財産を中心とした郷土の歴史——

◆うちなだ砂丘・かほく潟

- 4000 年前～1600 年前 ほぼ現在の地形になる

【産業】

漁業

- イワシ ● イカ ● コジクラ ● タイ ● カレイ ● キス ● ハマグリ
- アサリ貝 ● フナ ● コイ ● アメゴリ ● エビ ● シロゴリ
- 川ギス ● ウナギ ● シジミ貝 ● アサギ ● シラウオ ● ナマス
- ハネ ● ポラ

農業

- サツマイモ ● ラッキョウ ● タバコ ● 陸稻 ● アスパラガス
- レンコン ● 大豆 ● 大麦 ● 大根 ● キヤベツ ● トマト
- スイカ ● メロン ● フドウ ● ナシ

工業

- 燃糸業 ● ゴム入細巾織物業



河北潟干拓地 酪農

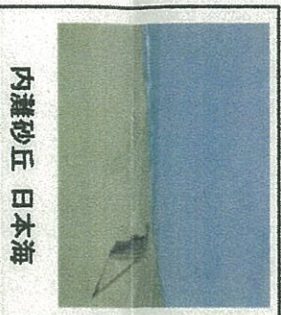
【砂丘・河北潟とその周辺の移り変わり】

- ★1851(嘉永 4)年 銭屋五兵衛の埋め立て工事

- ★1878(明治 11)年 機具橋 改修(明治 41)

- ★1925(大正 14)年 栗崎遊園開園(～昭和 16 年)

- 浅野川電車開通
- 栗崎海水浴場
- 魚釣り
- 貸ボート



内灘砂丘 日本海



金沢医科大学

- ★1953(昭和 28)年 内灘試射場(～昭和 31 年)

- ★1955(昭和 30)年 機具橋改修

- ★1957(昭和 32)年 砂丘地開発事業完了

- ★1958(昭和 33)年 埋立田

- ★1964(昭和 39)年 河北潟干拓事業

- ★1965(昭和 40)年 内灘海水浴場

- ★1968(昭和 43)年 放水路開通

- ★1970(昭和 45)年 金沢港開港

- ★1972(昭和 47)年 金沢医科大学開学

- ★1974(昭和 49)年 能登海浜道路開通

- ★1986(昭和 61)年 内灘高等学校開校

- ★1995(平成 7)年 風と砂の館オープン

- ★2001(平成 13)年 内灘大橋(サンセットブリッジ)開通

- ★2007(平成 19)年 コソフオモール内灘オープン



複合商業地 コソフオモール内灘



内灘大橋(サンセットブリッジ内灘) サンセットウイング内灘

【団地】

- ★1958(昭和 33)年 アカシア ★1967(昭和 42)年 鶴ヶ丘

- ★1971(昭和 46)年 旭ヶ丘 ★1975(昭和 50)年 緑台

- ★1977(昭和 52)年 向陽台 ★1980(昭和 55)年 千鳥台

- ★1982(昭和 57)年 大学 ★1984(昭和 59)年 大清水

- ★1996(平成 8)年 ハマナス

- ★2008(平成 20)年 白帆台ニュータウン



白帆台ニュータウン

◆できごと・くらし・学校

- 約 5500 年前 内灘に最初の縄文人居住

＜縄文時代＞

- 約 4500 年前 栗崎・大根布・西荒屋にかけて縄文集落

＜弥生時代＞

- 約 2500 年前 栗崎・大根布付近にも農耕集落現れる

- 西暦 900 年から 1000 年 稲作農耕が大規模になった

＜平安時代(中期)＞

- 1183(寿永 2)年 倶利伽羅峠の合戦(木曾義仲、平家軍を敗る

- 1580(天正 8)年 一向一揆

- 1586(天正 14)年 前田利家、黒津船神社に田地を寄進する

- 1600(慶長 5)年 関ヶ原の戦い

- 1872(明治 5)年 金沢県を石川県と改める

- 1889(明治 22)年 内灘村(向栗崎村、大根布村、宮坂村、

黒津船地内、西荒屋村、室村

- 1894(明治 27)年 日清戦争

- 1904(明治 37)年 日露戦争

- 1914(大正 3)年 第1次世界大戦

- 1939(昭和 14)年 第2次世界大戦 1945(昭和 20)年終戦

- 1962(昭和 37)年 内灘町町制施行し内灘町となる

- 1964(昭和 39)年 東京オリンピック

- 1970(昭和 45)年 大阪万国博覧会

- 1972(昭和 47)年 札幌冬季オリンピック

- 1991(平成 3)年 石川国体秋季大会(内灘町で自転車競技)

- 1998(平成 10)年 長野冬季オリンピック

人口の推移

- 1889(明治 22)年 4,087 人 (内灘村)

- 1948(昭和 23)年 6,000 人 (ベビーブーム 人口 6,000 人突破)

- 1962(昭和 37)年 7,476 人 (内灘町町制施行)

- 1969(昭和 44)年 10,000 人(人口が 10,000 人が突破)

- 1979(昭和 54)年 20,000 人

- 2000(平成 12)年 26,556 人

- 2008(平成 20)年 26,782 人

【学校】



内灘中学校校舎

- 1873(明治 6)年 大根布小学校

- 1875(明治 8)年 向栗崎小学校

- 1887(明治 20)年 西荒屋小学校

- 1947(昭和 22)年 大根布中学校、西荒屋中学校

- 1960(昭和 35)年 内灘中学校

- 1975(昭和 50)年 大根布南小学校、大根布東小学校

- 1996(平成 8)年 鶴ヶ丘小学校

- 1997(平成 9)年 清湖小学校

町の花・木・鳥 ー昭和 54 年制定ー



町の木 / 黒松



町の鳥 / 鷹(チュウヒ)



町の花 / はまなす